

まちづくりネットワーク岸和田議事録

- 日 時：平成21年2月25日（水）18：30～20：45
- 場 所：市立公民館3階講座室
- 参加者：43人（進行：松阪 記録：金野）
- ゲストスピーカー：中野 美紀さん（CLICK☆ざ・みいとそおす）
- テーマ：「“出会い”はオモシロイ！ ～エビちゃん流・まちづくり講座～」

中野 美紀（なかの みき）さん

中野さん（愛称：エビちゃん）は、豊中市で生まれました。ご両親は教師（英語と音楽）でしたが、その影響（？）で、学生時代には、好きなバンドの追っかけやカナダにも留学したり、さらに歌手のオーディションを受けたりなど、様々な経験と出会いをされました。

そんな中野さんが、市民活動に携わるきっかけになったのが「北摂こども文化協会」という NPO 法人に就職したことでした。「北摂こども文化協会」は、当時では珍しく、池田市立水月児童文化センターの管理委託を受けており、地域密着型の児童館として注目を集めました。当時中野さんは、センターの運営スタッフとして、大忙しの毎日を過ごしていました。

中野さんは結婚を機に、岸和田に来られました。しかし北摂出身だったため、知り合いもおらず、また泉州弁もわからず、孤独な日々の中で「私と同じように、他から岸和田に来て寂しい想いをしている人がいるはず！」との想いから、インターネット交流サイト『岸和田に嫁に来ました』を立ち上げました。その後、パソコンのクリックのように気軽に出来て、そして人が集う源（meet source）の言う意味を込め、「CLICK☆ざ・みいとそおす」を発足させて、現在、活動しています。

「人との出会い」を大切にされている中野さんが想う“人との出会い・つながり”、“まちづくり”とは、どういったものでしょうか・・・？また岸和田は他から見たら、どんな感じのまちでしょうか？“エビちゃん”流の切り口で、語っていただきます。お楽しみに・・・。

● 講演の概要

- 皆さんこんばんは。中野美紀と言います。
みんなからは「エビちゃん」とか「エビ」と言われています。どうしてかと言うと旧姓が戎家（えびすや）というからです。
- 今日は昼ぐらいからすごく緊張していました。皆さんの前で何を話そうかなあと考えると…。今も緊張していますが、皆さん若輩者を育てると言う意味で温かい目で見守って下さいね（笑）。
- インターネットラジオの取材（3月3日開設 <http://fm-kishiwada.co.jp/>）で、このような機械を置いています。また皆さんも聞いて下さい。私はこれにもチョコット関わらせてもらっています。
- 今日は三部構成でお話させていただきます。よろしくお願いします。



中野 美紀さん
（岸和田の“エビちゃん”です）

<第一章：高校教師になり損ねて・・・>

～企業勤務から NPO 職員になり経験したこと。市民活動の中で働いて見てきたもの

- 両親が教師ということもあり、教師志望でしたが、卒業の年に採用予定はなく、一般企業（楽器販売と楽器指導）に2年勤めました。子どもたちに指導が出来たので、それなりには楽しかったのですが、やはりノルマ等もあり、「やっぱり先生になりたい！」との想いがあり、退職しました。
- 退職したときに、NPO 法人北摂こども文化協会のTさんから誘いを受け（実は友人のお母さん）、池田市から民間委託になった池田市立水月児童文化センターの管理運営に携わってきました。
- 当時、池田市の財政は全国ワースト2で、非常に厳しく、そういった中、NPO で初めて公立施設の管理運営委託を受けたので、全国から問い合わせや視察の対応など非常に忙しかったです。
- 運営に際し、「どうすれば出来るか」を考え、関係先と相談しながら、子ども、親ともども、職員の参加、ボランティアや地域との交流等の実践を積み重ねてきました。
- イベントを開催するにあたっては、地域の方々との関わりが大事であることを思いました。
- その中で様々な人と出会いました。その頃は思いもよらなかったが、岸和田のMさんとも知りあっていたんですね。
- 同じ世代の方もたくさんボランティアとしてお手伝いしてくれました。同じ世代の人でも、同じミッション（目的）を持って頑張ってる人がたくさんいるんだなあと感じました。
- 活動の上では、子ども達を育てる次の5つのステージがあります。
1：出会いの場⇒2：気づきの場⇒3：つながりの場⇒4：行動の場⇒5表現の場 です。
- これらは「人やまち」を育てることに通じるものがあると思います。
- そういった活動をしていく中でTさんから多くのことを学びました。“人の気持ちを受け止めるやさしさ”、具体的には人の意見を排除しない、人を否定しないことです。
- “人を見守る、育てる”という想いがあったんですね。



会場には多くのエビちゃんファンが!!

こんなところで働いていました！
水月児童文化センター



<第二章：岸和田に嫁いできて・・・>

～孤独でコミュニティに入っていけないまさかの日々から、

小さな小さなコミュニティ「CLUCK！ざ☆みいとそおす」と発足するまで～

- NPO を3年で退職しました。その後結婚し、2005年4月に岸和田に来ましたが、知り合いもいませんでした。
- 岸和田の荒い言葉遣いや言葉の意味が通じないなど、カルチャーショックで、今から思えば、軽

い引きこもり状態でした。

- たまたまママさん友達（その方も枚方市出身で、私と馴染みがあり意気投合しました）との出会いがきっかけで、「きっと私以外にも、一人で寂しい人がいるんじゃないか」と思い、2006年5月にmixiの交流サイト「岸和田に嫁に来ました」を立ち上げました。
- そうすると、北は北海道から南は九州出身の方もいました。中には「これから岸和田に嫁に来ます。いろいろ教えてください」という方もいました。
- そしてネット上だけでつながるのではなくて、オフ会をしようということで、そこから「CLICK!ざ☆みいとそおす」を設立しました。今は市立女性センターをお借りして、活動しています。
- 「CLICK!ざ☆みいとそおす」のメンバーは、子育て中のママに限っていません。子どもがいない方も参加出来ますし、そういった意味では子育てサークルより門戸は広がっています。
- 「CLICK!ざ☆みいとそおす」には、メンバーの間で“恐怖の時間”と呼ばれている時間があります。それは自己紹介（名前、住んでいる所、出身地など）を毎回必ずするという事です。
- これには理由があります。初めて参加した人も、気軽に会話に入ってきて欲しいからです。グループ活動をしていると、どうしてもその中でも既にグループが出来てしまっていて、なかなか入れないからです。
- 出会うことを目的にしているのです。自己紹介を通じて「私も家近所や〜」、「私もそこ出身やで〜」なんかから会話、つながりが生まれます。
- そんな活動をしていると、いろいろなところから声をかけていただき、今では様々な活動に関わらせてもらっています。「すてっぷ家庭教育学級」委員長、まちづくり推進委員など、岸和田のまちづくりに関わっています。
- 岸和田に来てからの活動で気付いたことは、「市外から嫁に来た」、「同じ悩みを持つ」、「同じようにわからないことがある」など、「共通点(話題の一致)があれば仲良く出来る」ということです。



出会いの素晴らしさを語っていただきました!

<第三章：出会いが出会いを運んで・・・>

～多くの先輩市民に励まされて挑んだ新たな取り組み～

- 「CLICK!ざ☆みいとそおす」の活動を通じて、女性センターやそこを利用する方々とのつながりができ、ときわ家庭学級に参加させてもらいました。家庭教育学級とは親の学びの場です。
- そこでの出会いから、春木市民センターでの家庭教育学級(すてっぷ)の立上げに参加させていただき、委員長となりました。
- 「岸和田に嫁に来ました」の立ち上げという一歩を踏み出したことによって、出会いが広がり、自分自身の状況が大きく

変わりたい!それなら一歩を踏み出そう

- ・ 市民と市民がつながる
- ・ 助け合い共に成長する



市民力がつく

まちづくりの第一歩

すてっぷ家庭教育学級の学習風景

変化しました。

- 様々な会合に出る機会が増えてきましたが、行ってみると「あの人も知ってる！この人も見たことある！」というのが増えてきました。知った顔を見つけると安心します。
- まちづくりの第一歩は、市民どうしがつながり、助け合い、教えあい、共に成長（「市民力」の強化）することにあるのではないかと思います。

◆ 質疑応答から

Q：エビちゃんと同じように、市外から転入してきた「みいとそおす」初期のメンバーです。

言葉の違和感から、外出する機会が少なかったが「みいとそおす」に出会って助かりました。

A：岸和田の印象は、迷子が出た時のマイク放送に強く感じました。町内挙げて捜索するんですね。最初は、「迷子が出ました。町内の皆様、ご協力お願いします。」という放送で、暫くすると「まだ見つかっていません。ただ今、懸命に捜索しています」という放送、それから「皆様、迷子が見つかりました。本当にありがとうございました。」と放送が流れます。でもそんなのを聞いていると、本当に結束力や地域力があるんだなあと感じています。

Q：言葉などのコンプレックスがあり、生まれた岸和田から出たかったが、出られなかった。そんな想いを持ちながら、結婚し、子育てをする中で、本当に良いまちと思っています。

A：私も最初は地元に戻りたかったが、自分から居場所を見つけたんです。また、そんな私を支えてくれる人がいました。すごくありがたかったです。

教師になり損ねたというが、今は、私立高校や通信制の高校で教えており、夢をかなえています。それも同居しているお母さんの協力があるからだ感謝しています。好きな仕事をさせてもらっているのは、家族の支えなどがあるからこそことです。父が「念すれば花開く」とよく言っていました。それは、「思い続け、トライすること」だと思います。今後のことはまだわかりませんね。



Q：私はエビちゃんを岸和田に連れてきてくれた「だんなさん」に拍手したいと思います（笑）。

◆ 記録者の感想：若者でよそ者がまちを変える原動力だそうです。

若者で（今はまだ）よそ者の中野さんの今後の活躍に期待します。（金野）

◆ 今後のまちネットの予定：

3月25日（水）18：30～20：30 参加者による話題提供

4月22日（水）18：30～20：45 ゲストスピーカー

ゲスト：萬屋 誠司さん（「泉の和プロジェクト」事務局長、泉州だんじりの森設立準備委員）

テーマ：だんじり祭は未来の地球を救う！